

# 分野別学習内容

## 目 次

### ・基礎分野

#### 科学的思考の基盤

心理学・教育学・論理的思考・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1

哲学・倫理・情報科学・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2

#### 人間と人間生活・社会の理解

社会学・国際社会と看護・人間関係論・・・・・・・・ P 3

外国語 I・II・体育実技 I・II・・・・・・・・ P 4

### ・専門基礎分野

人体の構造と機能 I～IV・臨床生化学・・・・・・・・ P 5

臨床病態学 I～VII・・・・・・・・ P 6

薬理学 I・II・栄養学・・・・・・・・ P 7

#### 健康支援と社会保障制度

社会保障論・公衆衛生学・健康と運動・医療論・・・・ P 8

### ・専門基礎分野 I

看護学概論・基本技術論 I～III・生活援助技術論 I～III・・・・ P 9

診療援助技術論・教育指導技術論・臨床看護総論・・・・ P 10

### ・専門基礎分野 II

精神看護学 I～III・・・・・・・・ P 11

精神看護学IV・・・・・・・・ P 12

成人看護学 I～VI・・・・・・・・ P 13

老年看護学 I～IV・・・・・・・・ P 14

小児看護学 I～IV・・・・・・・・ P 15

母性看護学 I～IV・・・・・・・・ P 16

### ・統合分野

在宅看護論 I～IV・・・・・・・・ P 17

### ・看護の統合と実践

統合科目 I～III・・・・・・・・ P 18

統合科目IV・・・・・・・・ P 19

# 基礎分野

## 科学的思考の基盤

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
心理学	1	30	<p>感覚・知覚、認知、学習、発達、社会などの側面から心の動きについて理解し、社会的存在としての人間理解を深めることを目的とする。また、感覚器系を通して環境の状態を知り知識を獲得している人間の非常に複雑な感覚・知覚の働きを理解すると共に批判的思考プロセスにおけるメタ認知の役割を学び、「論理的思考」育成の一助とする。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理的発達</li> <li>2. 感覚・知覚</li> <li>3. 意識</li> <li>4. 学習、記憶</li> <li>5. 言語と思考</li> <li>6. 感情</li> <li>7. 知能</li> <li>8. 自己と人格</li> <li>9. ストレスと健康</li> <li>10. 心理的障害と心理治療</li> <li>11. 社会的認知情報の受容の仕方</li> <li>12. 批判的思考プロセスにおけるメタ認知の役割</li> <li>13. 集団過程におけるメタ認知の機能</li> </ol>
教育学	1	30	<p>教育とはきわめて人間的な営みであり、社会的な機能を有する。様々な教育を受けながら成長・発達している人間の「教育」とは何かを考え、主体的に学ぶことの意味を学び、生涯にわたり探求し続ける学習姿勢の育成を目指す。また、対象の持っている力を引き出し、活かすような教育のあり方を学び、看護実践に用いる教育指導技術に活用できる基礎的能力の育成をねらう。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育の意義と目的</li> <li>2. 教育の歴史</li> <li>3. 学習の仕組み、からくり</li> <li>4. 教育指導技術</li> <li>5. 教育評価</li> </ol>
論理的思考	1	30	<p>「考え、話し、書く」という実際の生活にいきっている論理のしくみについて理解を深め、筋道立てて考える力、問題解決プロセスにおける重要な本質的問題発見（原因の発見）の考え方や論理的思考スキルの習得を目指す。また、批判的思考を用いた読解力をトレーニングする教材を用いながら、正しい日本語（正確な文字、整った文書）による文章表現法の習得を図る。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アカデミックスキルを高める 講義を聴く技能 文章を読む技能 レポートを作成する技能</li> <li>2. 論理的に考える 論理的文章とは 論理的構成とは</li> <li>3. 論理的思考法 演繹推論 帰納推論 類推・アブダクション</li> <li>4. 論理的思考のバイアス 非論理的思考についての理解</li> </ol>

科目名	単 位	時 間	ねらい	学習内容
哲理 ・倫理	1	30	<p>医療の倫理的問題を検討するための基盤となる哲学・倫理的な知識を身に付けると共に、その知識を活用して諸問題を論理的・科学的に検討していく方法を学ぶ。</p> <p>哲学・倫理学の基本概念や関連理論、倫理原則、および哲学・倫理的思考様式の特徴について学び、生命倫理における代表的な問題群を取り上げ、問題背景の整理や論点の明確化、結論に至るまでの論証の方法について学ぶ。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 哲学・倫理的な思考様式の特徴</li> <li>2. なぜ生命倫理が必要とされるのか</li> <li>3. 生命倫理に関わる基本概念</li> <li>4. 生命倫理に関わる倫理理論</li> <li>5. 倫理原則</li> <li>6. 生命倫理の諸問題</li> </ol>
情報 科学	1	30	<p>統計上の基本的概念を理解し、看護学・医学上のデータ収集、集積、解析に必要な能力を養う。また、情報科学の基礎的な知識やコンピューターに関する知識を学び、医療現場の情報機器に対応でき情報活用ができる能力を養う。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的概念</li> <li>2. 記述的解析</li> <li>3. 統計的推論</li> <li>4. 関連と相関</li> <li>5. 情報科学の基礎</li> <li>6. 医療と情報システム</li> <li>7. 病院情報システム</li> <li>8. 看護と情報に関する倫理</li> <li>9. 看護と情報科学</li> </ol>

## 人間と人間生活・社会の理解

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
社会学	1	30	自分を取り巻く人間関係、社会現象をさまざまな角度からみることで社会的存在としての人間を理解すると共に、多様な社会の中で幅広いものの見方ができる能力を培い、看護の対象理解能力の基盤とする。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会とは何か</li> <li>2. 日本社会と集団</li> <li>3. 家族の構造と機能</li> <li>4. 役割理論</li> <li>5. 社会と心理</li> <li>6. 現代社会における諸問題</li> <li>7. 死と文化の国際比較</li> </ol>
国際社会と看護	2	30	グローバル（地球規模）な視野で、保健医療・看護の課題を理解する。また、トランスナショナル（脱国家・超国家的）な視点から、地域社会でのケアを捉え直す。以上2つの柱から、激変する国際社会が現代の疾病、看護の環境や人間そのもののあり方に大きな影響を与えていることを知り、看護師の将来像について考える。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地球規模でみた保健医療・看護の課題</li> <li>2. 看護師はなぜ国際移動するのか</li> <li>3. 外国人看護・介護職者と日本</li> <li>4. 外国人の医療保障</li> <li>5. 経済格差とジェンダーに関する国際協力</li> <li>6. 世界の高齢化と疾病化と疾病構造の変化における社会的要因</li> <li>7. 21世紀におけるプライマリヘルスケアの重要性</li> </ol>
人間関係論	1	15	人間が社会的役割を果たす上で生じる葛藤や人間関係のありようについて学習し、自分を伝えていく方法や自分らしさを大切にしながらよい人間関係を作っていくためのヒントを得られるようにしたい。また、多様な価値観、さまざまな人々とよりよい対人関係を築くためのコンピテンシー育成を図り、カウンセリング技法やコーチング技法などを取り入れた援助的コミュニケーションスキルを学べるようにする。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間関係の基礎</li> <li>2. 小集団のダイナミクスー集団力学の知見</li> <li>3. 人間関係の歪みや障害とその改善方法</li> <li>4. 人間関係と援助的コミュニケーション</li> <li>5. 人間関係のスキルトレーニング</li> </ol>

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
外国語 I	1	30	基礎的な看護英語の語彙、用法習得、記事や論文の読解力向上、インターネットを利用した看護情報の収集力向上をめざす。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院の科</li> <li>2. 問診票の記入</li> <li>3. 身体のパーツ</li> <li>4. 病気の種類</li> <li>5. 病院の日課</li> <li>6. 医療用品</li> <li>7. 医療品の収納場所</li> <li>8. 病院内の案内</li> <li>9. 既往歴の聴取</li> <li>10. 病院での検査</li> <li>11. インターネット英語論文検索、購読（グループ学習）</li> <li>12. 論文・抄録購読（グループ学習）</li> <li>13. グループ学習発表会</li> </ol>
外国語 II	1	30	ネイティブな会話に慣れ、日常生活における基礎的な会話をとおして看護場面で用いられる会話に発展させ、異文化・異言語の人々とのコミュニケーション能力を高めることを目指す。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎日のあいさつ</li> <li>2. 自己紹介</li> <li>3. 役に立つフレーズ</li> <li>4. 看護師用 日常生活基礎英会話</li> <li>5. 病院内での道案内・受付・会計などの場面での基本的な日常会話</li> <li>6. 問診・入院患者さんへの対応、看護場面での会話</li> </ol>
体育実技 I	1	15	基礎体力低下防止、自己の健康の保持・増進をめざし、体育理論を活用して効果的な運動を実践し、自己の健康管理意識を高める。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康と体力</li> <li>2. 健康と関連した体力測定</li> <li>3. 体操 エアロビクスダンス 各種トレーニング</li> <li>4. 室内球技</li> </ol>
体育実技 II	1	15	健康の維持・増進の為効果的な運動の方法を理解し、他者とともに楽しめるスポーツ・レクリエーションの体験を通して、自己及び集団の健康づくりに活かせ、サポートできる力を養う。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動の生理学的基礎</li> <li>2. 室内球技の実際 インディアカ バトミントン ボール運動等</li> </ol>

# 専 門 基 礎 分 野

## 人体の構造と機能

科目名	単 位	時 間	ねらい	学習内容
人体の構造と機能Ⅰ	1	30	人が生存し生活していくための基礎となる構造と働きを概観する。また、人体の各所に備わっている内部環境を整えるしくみや体を守るしくみについて学ぶ。 私たちの生活において体を動かすための構造と、立つ・歩くといった基本的な生活動作を支えるために備わっている運動器の構造について学ぶ。	1. 解剖生理学を学ぶための基礎知識 2. 運動器系 ～体を支え動かすしくみ 3. 生殖・発生のしくみ
人体の構造と機能Ⅱ	1	30	人が「生きていく」ために、生まれてから当たり前のように連続して働き続けている循環器、呼吸器はどのような構造と働きをしているのか関連付けて学ぶ。看護の情報として欠かせないバイタルサインを理解する基盤にする。	1. 呼吸器系 ～酸素を取り入れて二酸化炭素を排出するしくみ～ 2. 血液 ～物質を運搬するしくみ～ 3. 循環器系 ～身体のすみずみまで血液を送るしくみ～ 3. 内分泌 ～内部環境を整えるしくみ～
人体の構造と機能Ⅲ	1	30	私たちの「生活」は、体を動かすために外部からの情報を取り入れ判断していくことで成り立っている。立つ、歩くといった基本的な生活動作をコントロールする神経系の働きを学ぶ。解剖見学では座学で学んだ知識をもとに人体の構造と機能について理解を深め生命について学び、看護を学ぶ者として敬虔な気持で献体者に感謝の気持ちを抱けるようにしたい。	1. 神経系 ～情報の判断と伝達～ 2. 感覚器系 ～外部からの情報を取り入れるしくみ～ 3. 演習 解剖見学
人体の構造と機能Ⅳ	1	30	日常生活の中で繰り返されている「食べる」と「排泄」は人体のどのようなしくみで成り立っているかを学ぶ。 性、生殖器では構造と機能を学び生命の成り立ちと尊厳について理解を深める。	1. 消化器系 ～食物を摂取して消化・吸収・排泄するしくみ～ 2. 腎・泌尿器系 ～尿を作り排泄するしくみ～ 3. 外部環境からの防御
臨床生化学	1	30	身体の中では様々な物質が変化し、協調しながら身体の健康を維持している。この変化、つまり身体がどのような成分から成り立っていて、それがどのように作られ、壊されて調節されて健康を維持しているのかを、物質のレベルで学習する。	1. 生化学とは 2. 代謝総論 3. 生命維持に必要な栄養素の構造と性質 4. 酵素 5. 生体内の物質代謝 6. 遺伝情報 7. 代謝と疾患

# 疾病の成り立ちと回復の促進

## 臨床病態学

ねらい：疾病の成り立ちおよび診断・治療について学び、看護実践の根拠となる観察力、判断力を養う。

### 【構成】

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
臨床病態学Ⅰ	1	15	疾病の原因と疾病の成立する過程ならびに人体の諸臓器・組織における病的状態を理解する。	<総論> 1. 病気とは 2. 組織細胞に生じる異常と修復 3. 腫瘍 4. 炎症 5. 免疫とその異常 6. 循環障害
臨床病態学Ⅱ	1	30	健康な状態からの変化を確認する診断過程および基本的な検査と治療法の概略を理解する。	<診療の基礎> 1. 診断過程 2. 検査の進め方と主な検査 3. 主な治療
臨床病態学Ⅲ	1	30	病原体がどのように感染症の発症につながり人々の健康を脅かす問題になるのか理解した上で、その治療法や予防法を学ぶ。	<臨床微生物> 1. 感染の成り立ちと予防および治療 2. 代表的な感染症と微生物
臨床病態学Ⅳ	1	30	生命維持の基盤となる呼吸、循環、血液・造血器系の機能に障害を起こす病態および検査・治療を理解する。	<生命維持機能の障害> 1. 呼吸器系の障害 2. 循環器系の障害 3. 血液・造血器系の障害
臨床病態学Ⅴ	1	30	人の活動を支える運動器系や脳・神経、感覚器系の機能に障害を起こす病態および検査・治療を理解する。	<活動を支えるコントロールする機能の障害> 1. 運動器系の障害 2. 脳・神経系の障害 1. 感覚器系の障害
臨床病態学Ⅵ	1	30	食物摂取および消化・吸収・排泄機能に障害を起こす病態および検査・治療を理解する。	<消化・吸収、排泄機能の障害> 1. 消化器系の障害 2. 腎・泌尿器系の障害
臨床病態学Ⅶ	1	30	内部環境の調整、生体防御機能、生殖機能等に障害を起こす病態および検査・治療を理解する。 また身体の中で生じている変化を病変と症状、治療を関連づけて理解する力を養う。	<内部環境の調整、人体防御機能の障害、その他> 1. 内分泌・代謝系障害 2. アレルギー・免疫系の障害 3. 性・生殖器系の障害 2. 先天異常 3. 病態の関連性

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
薬理学Ⅰ	1	30	薬理学の概念を理解し、薬物と薬物受容体の反応や薬効、薬物の有害作用について理解する。また、薬物が生体に及ぼす諸作用、薬物の吸収及び排泄作用を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医薬品</li> <li>2. 医薬品の作用原理とその影響</li> <li>3. 医薬品の適正な利用に向けて</li> <li>4. ライフサイクルと薬</li> <li>5. 臨床で多用され、有害作用の危険性のある薬剤</li> <li>6. 麻薬と疼痛緩和</li> <li>7. 主な疾患に対する治療薬</li> </ol>
薬理学Ⅱ	1	30	代表疾患に使用する治療薬の作用、副作用（有害作用）を理解する。また、治療薬の使用上で看護師として観察すべき重要点を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中枢神経系に作用する薬剤</li> <li>2. 循環・血液系に作用する薬剤</li> <li>3. 抗感染症薬</li> <li>4. 特殊な感染症の治療薬、消毒薬</li> <li>5. アレルギーならびに炎症疾患に対する治療薬</li> <li>6. 生殖器に作用する薬物・漢方薬</li> <li>7. 物質代謝に作用する薬物</li> <li>8. 抗がん剤ならびに生物学的製剤</li> <li>9. 救急の際に使用される薬物、栄養剤</li> </ol>
栄養学	1	30	現代の食生活を理解し、人々の健康時・疾病時の栄養管理について理解する。また、人間のライフステージにそって栄養管理のポイントを理解し、看護アセスメント能力を身に付ける。さらに、高齢化社会を迎えて臨床や在宅で用いることの多い経管栄養や中心静脈栄養管理について理解する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康と栄養</li> <li>2. 日常生活と栄養</li> <li>3. 食物と栄養</li> <li>4. ライフサイクルと栄養</li> <li>5. 疾病と栄養</li> <li>6. 食事指導の実際</li> <li>7. 経口以外の栄養療法の種類</li> <li>8. 栄養管理におけるチームアプローチ（NST）</li> </ol>



## 健康支援と社会保障制度

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
社会保障論	2	30	保健医療福祉に関する基本概念、制度、関係する職種の役割等を理解し、人々が生涯を通じて、健康や障害の状態に応じた生活を保障するための社会福祉制度を学ぶ。そして、人々の健康維持増進、人々の幸せな暮らしを目指し生活基盤を支える社会保障のあり方を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の保健医療福祉活動の基本概念</li> <li>2. 社会保険制度</li> <li>3. 社会福祉諸法の理念と施策</li> <li>4. 社会福祉行政</li> </ol>
公衆衛生学	2	30	人々の健康的な生活を支える社会の仕組みを公衆衛生的観点から学び、健康の保持・増進・疾病予防に関する社会的システムや役割について理解する。また、地域（コミュニティ）を対象とする保健の構成分野を理解し、保健活動の実際を知る。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生の目的と意義</li> <li>2. 健康の指標</li> <li>3. 健康とその成立</li> <li>4. 生活環境の保全</li> <li>5. 公衆衛生行政</li> <li>6. 公衆衛生活動に関する主な法規</li> <li>7. 公衆衛生看護と地域看護の関連</li> </ol>
健康と運動	1	30	運動の効果、および健康に役立つ運動について運動生理学の立場から理解を深め、人々の健康を支援する能力の育成を目指す。地域で行われる運動を通じた健康支援活動を視野に入れ、健康の維持・増進のための運動療法について講義と演習を通して学ぶ。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康と運動</li> <li>2. 運動生理学からみた運動の効果</li> <li>3. 最近の健康支援活動の理論と実際</li> <li>4. 運動療法・リハビリテーション療法</li> </ol>
医療論	1	15	医療の本質と変遷を学び、医療に携わる者としての倫理的使命や役割を理解する。また、現代医療の進展や課題を理解し、医療の将来展望を考える。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療とは</li> <li>2. 医療の変遷</li> <li>3. 医療を支える人々</li> <li>4. 医療システム</li> <li>5. 医療に携わる者の使命</li> <li>6. 現代医療の課題と将来展望</li> </ol>

## 専 門 分 野 I

科目名	単 位	時 間	ねらい	学習内容
看護学 概論	1	30	看護の基本とその役割を明確にし、対象である人間とその生活を看護の視点で学ぶとともに、看護の歴史の変遷、倫理的判断の基盤について学ぶ。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の本質</li> <li>2. 歴史にみる看護の誕生と発展</li> <li>3. 看護の構造</li> <li>4. 看護実践の方法</li> <li>5. 看護と倫理</li> <li>6. 保健・医療・福祉システムと看護</li> <li>7. まとめ</li> </ol>
基本 技術論Ⅰ	1	30	あらゆる看護実践に共通する基本的な看護技術を習得する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 技術の概念</li> <li>2. 安全・安楽のための技術</li> <li>3. 感染予防のための技術</li> <li>4. 事故防止のための技術</li> <li>5. 看護記録</li> </ol>
基本 技術論Ⅱ	1	30	看護実践に必要なコミュニケーションに関する基本的な知識、技術、態度を習得する。フィジカルアセスメントのための基本的な知識、技術、態度を習得する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションの技術</li> <li>2. フィジカルアセスメント</li> </ol>
基本 技術論Ⅲ	1	30	看護過程に関する基本的知識・技術を習得する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程とは</li> <li>2. 看護過程の構成要素</li> <li>3. 事例を用いた看護過程の展開</li> </ol>
生活援助 技術論Ⅰ	1	30	環境調整の技術に関する基本的な知識・技術・態度を習得する。 活動・休息の援助に関する基本的な知識・技術・態度を習得する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境調整技術</li> <li>2. 活動・休息援助技術</li> </ol>
生活援助 技術論Ⅱ	1	30	食事の援助に関する基本的な知識・技術・態度を習得する。 排泄の援助に関する基本的な知識・技術・態度を習得する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食事の援助技術</li> <li>2. 排泄の援助技術</li> </ol>
生活援助 技術論Ⅲ	1	30	清潔・衣生活の援助に関する基本的な知識・技術・態度を習得する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 清潔・衣生活援助技術               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 清潔の援助</li> <li>2) 衣生活の援助</li> </ol> </li> </ol>

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
診療援助 技術論	2	45	診療・検査・治療を受ける患者の状況に応じた看護を実践するための看護の役割と援助の方法を習得する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸・循環を整える技術</li> <li>2. 与薬・輸血の技術</li> <li>3. 検査に伴う看護技術</li> </ol>
教育指導 技術論	1	15	看護における教育・指導の理論と方法を理解し、対象の個別性に応じた教育指導技術を習得する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護における教育・指導</li> <li>2. 看護に活かす学習理論、健康教育理論</li> <li>3. 指導技術の基本となるもの</li> <li>4. 指導の対象と領域</li> <li>5. 看護における指導のプロセス</li> <li>6. 事例をもとに指導計画の立案</li> <li>7. 指導場面の模擬体験</li> </ol>
臨床看護 総論	2	45	対象を理解し、状態に応じた看護技術を適用するための基本を習得する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康障害の経過からみた看護</li> <li>2. 治療・処置を受ける対象の看護</li> <li>3. 状態に応じた看護技術</li> </ol>

## 専 門 分 野 II

科目名	単 位	時 間	ねらい	学習内容
精神 看護学Ⅰ	1	30	人の心の理解や社会的存在としての人間理解は人間理解の要である。そのため、この科目では、精神機能としての感情や思考などの機能や心の構造について学び、他者との関わりや様々な出来事で生じる人間の心のしくみやからくり、心の育ちやライフサイクルにおける心の危機的反応について学習し、多様な価値観をもち変化の激しい複雑な現代社会に生きる人の心理社会的側面の理解を目指す。また、これらの学習をとおして、社会的存在としての人間理解を深め、看護実践における対象理解や対人活動の一助としたい。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神看護と心</li> <li>2. 精神機能の理解</li> <li>3. 脳機能からみた心の構造</li> <li>4. 自我機能</li> <li>5. ストレスと危機</li> <li>6. ライフサイクルと人格の発達</li> <li>7. 発達段階での危機の諸相</li> <li>8. 現代社会における危機の諸相</li> <li>9. 医療現場における危機の諸相</li> <li>10. 特殊な状況における危機の諸相</li> </ol>
精神 看護学Ⅱ	1	15	精神看護の考え方を学ぶ科目として位置づけ、精神の健康と健康障害の考え方を理解し、精神看護に用いられている看護理論や中範囲理論を学習して精神的健康状態のアセスメント力向上を期待する。また、これらの学習をとおして、精神的健康に役立つ知識やストレス緩和対策の知見を深めたい。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神の健康と不健康の考え方</li> <li>2. 精神看護を取り巻く環境と課題</li> <li>3. 精神看護に活用する看護理論</li> <li>4. 精神面のアセスメントに役立つ中範囲理論</li> </ol>
精神 看護学Ⅲ	1	30	<p>精神医療看護の歴史と現代社会における精神障害者の社会的立場について理解し、精神障害者の人権尊重と精神保健医療看護を展開していく上での看護師の役割や倫理的配慮について学ぶ。</p> <p>精神障害について理解を深め、精神の健康障害における検査、治療についての知識を持つとともに精神疾患を発症しやすい代表的な身体疾患と看護援助を展開できる基礎的知識を習得する。さらに精神の健康上に問題を持つ人が地域で生活していくために必要な援助とそれを支えるシステムについて理解する。</p>	<p>精神科医師</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障害総論</li> <li>3. 統合失調症</li> <li>4. 感情（気分）障害</li> <li>5. 神経症</li> <li>6. パーソナリティ障害、発達障害</li> <li>7. 依存症、摂食障害</li> <li>8. 認知症、その他</li> </ol> <p>学内講師</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神保健医療福祉と看護の歴史の変遷</li> <li>2. 精神保健福祉をめぐる法律</li> <li>3. 看護の倫理と人権擁護</li> <li>4. 地域における精神保健活動と精神看護</li> <li>5. 看護と癒し 当事者から学ぶ対象の理解</li> </ol>

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
精神看護学Ⅳ	1	30	<p>精神障害は特別なものではなく、誰もが罹患する可能性のある心の反応であるという考えを持ち、そこに至るまでの背景に目を向け、対象を全人的に捉えた上で、症状や言動をアセスメントすることが大切である。また、学習を通して、自らの心の健康管理も高められるようになってほしい。患者 - 看護師関係を理解し、自分を活用した治療的な関わりの実践につなげ、看護者としての態度を深めてほしい。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神看護における対象の理解と観察の視点</li> <li>2. 病状各期の理解と看護</li> <li>3. 治療的環境 患者-看護師関係</li> <li>4. 看護の倫理と人権擁護</li> <li>5. 児童・思春期の理解</li> <li>6. 身体的ケア、精神療法</li> <li>7. 精神科におけるチーム医療</li> <li>8. 主要症状と看護技術援助</li> <li>9. 服薬治療に関わる援助</li> <li>10. 検査・治療と看護</li> <li>11. 精神科リハビリテーション</li> <li>12. 社会療法と看護</li> <li>13. 精神障害のある人への看護過程</li> </ol>

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
成人看護学Ⅰ	1	30	成人期にある人を成長・発達、環境や生活の特徴から理解するとともに、成人期の健康問題について検討し、健康の保持・増進、疾病予防にむけた看護について理解する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期にある人の理解</li> <li>2. 成人期にみられる健康障害</li> <li>3. 成人への看護に有用な概念</li> </ol>
成人看護学Ⅱ	1	30	手術療法を受ける成人期にある患者の身体・心理・社会的問題を理解し、健康障害および回復過程に対する看護を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸器系の手術療法を受ける患者の看護</li> <li>2. 消化器系の手術療法を受ける患者の看護</li> </ol>
成人看護学Ⅲ	1	30	生命危機状態にある対象を身体・心理・社会的側面から理解し、生命維持と苦痛の緩和に向けた看護を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命危機状態にある患者の看護</li> <li>2. 脳神経系の手術療法を受ける患者の看護</li> <li>3. 循環機能の障害を持つ患者の看護</li> </ol>
成人看護学Ⅳ	1	30	生涯にわたり生活調整の必要な対象を身体・心理・社会的側面から理解し、患者・家族への継続治療と、生活調整に必要な看護を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 糖代謝障害のある患者の看護</li> <li>2. 体液調整障害のある患者の看護</li> <li>3. 慢性の栄養摂取・代謝機能障害をもつ患者の看護</li> </ol>
成人看護学Ⅴ	1	30	治癒困難な状況にある対象を身体・心理・社会的側面から理解し、緩和ケアの基盤となる概念およびそれに基づいたケアの方法について理解する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 緩和ケアの総論</li> <li>2. 癌性疼痛のある患者の看護</li> </ol>
成人看護学Ⅵ	1	30	手術療法を受ける対象の、看護に必要な看護過程の展開能力を身につける。 周手術期に必要な看護技術を学ぶ。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上部消化器系の手術療法を受ける患者の看護</li> <li>2. 手術療法を受ける胃癌患者の看護過程の展開</li> <li>3. 術後の援助技術</li> </ol>

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
老年看護学Ⅰ	1	30	<p>老年期にある人とはどういう人か？という問いを立て、対象理解のための材料を増やしていく。また、加齢変化の特徴をふまえ、老年期に生じやすい症状を理解していくことを通して高齢者を看護するために求められる基本的知識・技術・態度を学ぶ。</p> <p>未知の年代である老年期の理解のためには対象から学ぶという姿勢を持ち、演習や体験を通して学習を深めていきたい。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年看護を理解するための基盤</li> <li>2. 老年看護の目的・目標</li> <li>3. 老年期の健康問題と援助方法</li> </ol>
老年看護学Ⅱ	1	15	<p>高齢者をとりまく社会の現状と変化していく保健医療福祉制度を理解し、高齢社会を生きる対象の理解を深める。また、さまざまな場で生活する高齢者とそれを支える看護の役割、多職種との協働についても考えを深めていく。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者を取り巻く社会</li> <li>2. 高齢者と社会システム</li> <li>3. 介護保険制度</li> <li>4. 高齢者の保健医療福祉施設における看護</li> <li>5. 高齢者を介護する家族の理解</li> <li>6. 老年看護における倫理的課題</li> <li>7. 高齢者の終末期の看護</li> </ol>
老年看護学Ⅲ	1	30	<p>健康障害のある高齢者について、加齢変化の特徴、疾患・治療の理解、その人の生活歴など多角的かつ総合的に理解し、看護を展開するための学習をする。ここでは生活機能に支障をきたす疾患・症状を取りあげ、回復期・慢性期にある高齢者に対して生活の再構築について必要な看護を学ぶ。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活の再構築が必要となった高齢者の看護</li> <li>2. 認知機能に障害を持つ高齢者への看護</li> <li>3. 褥瘡の看護</li> </ol>
老年看護学Ⅳ	1	30	<p>健康障害のある高齢者について、加齢変化の特徴、疾患・治療の理解、その人の生活歴など多角的かつ総合的に理解し、看護を展開するための学習をする。ここでは高齢者が外科的侵襲を伴う治療・処置を受けた場合に生じるさまざまな反応を理解・予測し、退院後の生活にも目を向けた看護を学習する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手術療法と高齢者</li> <li>2. 手術療法を受ける高齢者への看護</li> <li>3. 高齢者の感染症</li> </ol>

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
小児看護学Ⅰ	1	30	小児看護の概要を理解し、子どもの成長・発達と、小児各期に適した生活と養護がわかる。小児期はその後に続く各期への出発点であり、小児看護は、人間の成長にとって重要な時期にある対象の健康を支援する役割をもつことを理解する。本質的な特徴である成長・発達について、その原則、影響因子を理解したうえで、小児各期の形態的・機能的・精神運動的発育について学習する。さらにその発達を支える栄養、成長・発達段階に応じた日常生活の援助に必要な基本的知識と技術を習得する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの理解</li> <li>2. 小児看護の目的と機能</li> <li>3. 子どもの成長・発達</li> <li>4. 子どもの栄養</li> <li>5. 小児各期の養護と生活指導</li> </ol>
小児看護学Ⅱ	1	15	小児を取り巻く社会環境とその動向と、社会的にみた小児の健康上の課題が分かる。子どもは社会の影響を大きく受ける。現代社会の子どものおかれている現状を理解し、法律や制度の面から社会が子どもの生存・健康をどのように保障しようとしているのかを学習する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもをめぐる社会状況とその動向</li> <li>2. 現代社会における小児の健康問題</li> </ol>
小児看護学Ⅲ	1	30	健康を障がいされた小児および家族に疾患の回復、健康の保持・増進、成長・発達を促がすために必要な援助がわかる。小児および家族にとって健康障害や入院は危機的状況であり、それらが小児や家族に与える影響は大きい。成長発達途上にあるがゆえに、環境の影響を受けやすく、状態の変化が早い。そのような健康状態にある小児および家族の心理状況や心理的準備（プリパレーション）の重要性を理解し、発達段階や状態に応じた看護を学ぶ。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児臨床看護総論</li> <li>2. 発達段階の特徴を踏まえた疾患や障がいをもつ子どもと家族の看護</li> <li>3. 小児看護技術</li> </ol>
小児看護学Ⅳ	1	30	健康を障がいされ、様々な状況にある小児および家族に疾患の回復、健康の保持・増進、成長・発達を促がすために必要な援助を学習する。また、事例演習を通して、健康障害をもつ小児の健康問題をアセスメントし、実施・評価する過程を学習する。さらに、小児を援助するための基本的技術を習得する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 様々な状況にある小児と家族の看護</li> <li>2. 小児看護過程演習</li> <li>3. 小児看護技術</li> </ol>



科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
母性看護学Ⅰ	1	15	母性看護学Ⅰでは、母性看護の概念、母性の対象や発達についての理解、母性看護の変遷から今後の発展課題を考える。また、人間の性と生殖やセクシャリティの発達について学び、人間の性の意義を考え理解するとともに、母性看護を取り巻く倫理的な問題・課題について考え、意思決定に対する支援について理解する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母性の概念</li> <li>2. 人間の性の意義</li> <li>3. 母性看護の変遷</li> <li>4. 母性看護における倫理</li> </ol>
母性看護学Ⅱ	1	30	母性看護学Ⅱでは、女性のライフサイクルにおける健康の増進、疾病の予防に関して理解し、母性の健康維持・増進に向けての援助及び保健指導について学ぶ。母性保健の動向や母性保健対策の現状を理解し、母性保健活動や医療チームにおける看護師の役割を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母性保健の意義</li> <li>2. 母性保健に及ぼす因子</li> <li>3. 母性看護と法整備</li> <li>4. 母子保健施策から見た現状</li> <li>5. 女性のライフサイクルの特徴と保健</li> <li>6. 女性のライフサイクルの健康問題と看護</li> </ol>
母性看護学Ⅲ	1	30	母性看護Ⅲでは、生命の誕生に向け、新しい家族の形成期にある人々の身体的・心理的・社会的特徴の理解と、日常生活における基本的なセルフケアを維持・促進する援助が行えるように、必要な基礎知識とウェルネスの視点を基にした援助技術について学ぶ。新しい家族の出発点であり、その後の家族形成に大きな影響を与える生命誕生の意義について考えていく。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠の生理</li> <li>2. 妊娠期の看護</li> <li>3. 分娩期の看護</li> <li>4. 妊娠・分娩期の援助技術</li> </ol>
母性看護学Ⅳ	1	30	母性看護Ⅳでは、生命の誕生を迎え、新しい家族の形成期にある人々の身体的・心理的・社会的特徴の理解と、日常生活における基本的なセルフケアを維持・促進する援助が行えるように、必要な基礎知識とウェルネスの視点を基にした援助技術について学ぶ。胎児をふくめた母子を一体とし、家族も看護の対象として考え、育児支援や家族形成のあり方を考えていく。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 産褥期の看護</li> <li>2. 新生児の看護</li> <li>3. 正常経過の母児の看護過程の展開</li> <li>4. 産褥・新生児期の援助技術</li> </ol>

## 統 合 分 野

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
在宅看護論Ⅰ	1	15	<p>在宅看護への社会のニーズと使命が高まっている。保健医療福祉の中で看護の専門性が発揮されることが強く望まれている。ここでは、地域における良質で適切な看護を提供するための導入にあたる学習となる。</p> <p>在宅看護の歴史や社会背景をふまえ、在宅看護の意義を学び看護への興味、関心へと繋げられる第一歩としたい。在宅看護の概念、対象、方法を学び、在宅看護を支える制度、地域ケアシステムの中の看護の役割と関連職種との連携の必要性を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護の概念</li> <li>2. 在宅看護の対象の理解</li> <li>3. 在宅看護を支える訪問看護</li> <li>4. 在宅ケアを支える制度と社会資源</li> <li>5. 在宅ケアの連携とマネジメント</li> <li>6. 在宅医療の背景と実際</li> </ol>
在宅看護論Ⅱ	1	30	<p>在宅看護の特質として、療養者及び家族の生活の場で看護が提供されることを理解し、できる限り在宅での生活が継続できる支援のあり方を考えることができるようにする。また、在宅看護展開のために求められる看護師の基本的姿勢と、生活の場に即した療養者及び家族への日常生活援助となるための、実践的な方策を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護の看護過程</li> <li>2. 在宅看護過程の実践</li> <li>3. 在宅療養者及び家族への日常生活援助</li> </ol>
在宅看護論Ⅲ	1	30	<p>地域で慢性疾患を抱えながら、あるいは24時間ケアを要する難病療養者とその家族に対して、健康レベルをふまえた自立への援助について学ぶ。さらに対象がQOLを高めていけるよう保健、医療、福祉システムの活用と連携について学ぶ。</p> <p>また在宅で終末を迎える療養者を支えるために、療養者自らが死を受け入れ、在宅での過ごし方を自己決定しながら家族とともに生活していくことができるよう支援のあり方を学ぶ。同時に学生自身の人生観や死生観を培う一助となるよう学んでいく。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅で療養する難病療養者への看護</li> <li>2. 在宅で療養する慢性疾患の人への看護</li> <li>3. 在宅終末期看護</li> </ol>
在宅看護論Ⅳ	1	30	<p>病気や障害を持ち自宅で生活を送る療養者及び家族への支援は、多くの職種や機関と連携しながら、本人・家族の主体性や生活環境をふまえ様々な視点から考えていくことが必要である。そのために、在宅療養者の特徴的な疾病による生活の障害を学び、本人や家族への在宅生活支援のあり方を理解することができることを目指す。また、在宅看護においては、健康問題を抱える家庭の家族機能や役割の変化が家族システムの安定を脅かさないよう、療養者と家族をトータルにとらえる看護の視点が必要となる。そのための家族への支援のあり方を理解していく。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族支援のあり方</li> <li>2. 在宅療養を支える地域連携システム</li> <li>3. 感染症のある人への看護</li> <li>4. 身体に障害がある人への看護</li> </ol>

## 看護の統合と実践

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
統合科目 I	1	15	より良い看護を提供するためには自らの看護を専門的に追求する努力が必要である。看護の専門性や独自性を追求するためには、看護に関連する事象を科学的方法によって説明できる必要がある。そこで、看護実践活動における看護研究の種類、看護研究の方法、看護研究と文献収集法について学び、研究の基本的用語、研究方法、研究的態度を養う。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護研究とは     研究の目的と意義</li> <li>2. 看護研究の種類</li> <li>3. 研究の過程と進め方</li> <li>4. 文献検索</li> <li>5. 看護研究の実際例</li> </ol>
統合科目 II	1	30	臨地実習で体験した看護を語り合い、看護の意味について深く考え、自己の看護観を涵養する。さらに、自らの看護体験を活用し、研究手法に則って整理し、研究のプロセスを学ぶと共に継続して看護のあり方を追究する姿勢を養う。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の探求</li> <li>2. 研究演習の実際</li> </ol>
統合科目 III	1	30	<p>&lt;災害看護&gt; 災害発生時の社会の対応やしきみ、災害が人々の生命や生活に及ぼす影響を学び、演習等の体験学習をとおして災害時に看護が果たす役割、災害各期における看護支援活動のあり方について考え、災害看護に対応できる能力を養う。</p> <p>&lt;医療安全&gt; 医療が高度化する中、安全で安心できる看護業務が求められている。そのような状況下において、医療事故の関連から看護師としての法的責任を理解し、安全を守るための方策を考える基礎的知識を養い、リスク回避・予防のための行動を考えることができるようにする。また、タイムプレッシャー下での複数受け持ち患者(多重課題)への対応の仕方を通してリスクマネジメントの実践力を養う。</p> <p>&lt;看護技術の総合的評価&gt; これまでの看護技術の習得状況を確認するとともに、最終的な看護技術の評価を行い、臨床での課題を明らかにする。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害看護             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 災害看護に関する基礎的知識</li> <li>2) 実践 災害サイクルからみた各期の対応</li> <li>3) 静穏期とこれからの災害看護</li> <li>4) 災害時に必要な技術(CPR、トリアージ)</li> </ol> </li> <li>2. 医療安全             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護における医療安全の考え方</li> <li>2) 危険予知トレーニング</li> <li>3) 多重課題に対する対応</li> </ol> </li> <li>3. 看護技術の総合的評価             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習での未体験・未修得技術の確認、演習</li> <li>2) 総合的技術試験</li> </ol> </li> </ol>

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
統合科目 IV	1	30	<p>看護に関連する多職種との連携機能やさまざまな組織活動について理解を深め、対象者に効果的・最良の看護サービスを提供するためのシステムが看護管理に関連していることを学ぶ。また、看護職としての責任や医療チームの一員であることの自覚を高め、行動できる能力を養う。メンバーシップ・リーダーシップについても熟知してマネジメント能力を培う。さらに、医療・看護に関連する法や制度を学び、看護職が法の下に行動していることを知って、実践に役立てられるようにする。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護管理とは</li> <li>2. 看護管理に関連する法と制度</li> <li>3. 看護の質保証と看護管理</li> <li>4. 看護管理と社会貢献</li> <li>5. まとめ・筆記試験</li> </ol>